

ニュースレター

Rejoice

No.12

〔特集〕 委託病院清掃の質向上のための取り組み

今回は、福岡大学病院を訪問させていただき、感染制御の観点や建物のメンテナンスのみならず、病院スタッフの働き方にまで考慮された、業者選定の取り組みについてお話を伺いました。

福岡大学病院



〒814-0180
福岡市城南区七隈 7-45-1
TEL:092-801-1011
<https://www.hop.fukuoka-u.ac.jp/>



福岡大学病院 感染制御部
副部長・看護師長・感染管理認定看護師
橋本文代さん



事務部 庶務課長補佐
中島裕之さん



事務部 庶務課
村上敏史さん

Q:貴院の病院清掃について、最近契約先を変更したとのことですが、きっかけなど教えていただけますか。

橋本:当院は、771床を有する私立大学病院で、感染対策向上加算Ⅰを算定し、加算Ⅱ、Ⅲの10施設、外来感染対策向上加算15施設と連携する福岡県西部の地域基幹病院です。

今回清掃業務に着目したきっかけは、2009年に多剤耐性アシネトバクターバウマニのアウトブレイクを経験したことです。これにはいろいろな要因が重なりましたが、とりわけ病院環境整備の重要性に着目するようになりました。当時の病院清掃の実情を確認したところ4社の業者に改善を要望するものの、一時的に改善はしますが、維持継続せず、根本的な解決にいたりませんでした。また、折からのコロナ禍でも、肝心の時に臨床現場に入っていたけず大変困りました。

新本館に移転することをきっかけに、業者を見直す機会と捉え、事務方とともに院内で検討を進めました

Q:業者選定にあたり特に重要視した点があれば教えてください。

橋本:感染管理を担当する立場からすれば、4社の業者が入っていた時、清掃の資機材や用具の種類、管理方法にばらつきがあり、それらの標準化がひとつの解決すべき課題でした。また、多剤耐性菌のアウトブレイク、コロナ等の新興感染症の流行時の清掃に入ってもらえないと、臨床診療の継続に関わる重大な事態となることから、そうした感染症に対応した清掃を行ってもらえる業者を選定すべきと考えました。RJCさんは、経験や実績もあったため、大きな決め手のひとつとなりました。

Q:事務の方としてはいかがでしたでしょうか。

中島:以前のように4社の業者が入っていると、それぞれの業者の事情がありばららの意見がかえってくるため、とりまとめに苦労していました。業者のエリア区分についても、例えば一カ所で問題があったとしても、病棟スタッフとしてもどの業者がどのエリアを清掃担当しているのかがわかりにくく、一旦事務方に連絡が来て現場を確認し、該当の業者に連絡しなければならず、結果的に対応も遅くなり不評でした。一本化の意義は大きく、病院清掃の質だけでなく、スタッフの働き方改革にも直結するため、連絡体制のスリム化にも役立ちました。

新本館を、今後50年以上使っていくにあたり、できるだけ美観を保ち、大事に使っていききたいこともあり、一社を決めて責任持ってしっかり清掃を担っていただきたかったのです。

Q:作業にあたり、マニュアルなどは整備されましたか。

橋本:業者さんのスタッフ教育は、どの業者でも教育プログラムを持っています。しかし、それぞれのプログラムを拝見すると、どこまできちんとされているかわかりにくいものが多かったのです。そん





合同会議の様子

資料

な中、ずいぶん以前の環境感染学会のブースで、リジョイスカンパニーと出会い、例えばトイレの清掃について画像を用いて研修が行われていて、それをクリアした方でないとい現場に配属されないと伺い感銘を受けました。自社の教育プログラムがしっかりとされている業者であり、感染管理のみならず、個人情報保護や安全管理なども網羅されていて、病院職員でも受けるようなプログラムを自社でもっておられ、入社時にその研修を受けられています。清掃業務のスタッフは入れ替わりも少なく無いと思いますが、あらたに現場に着かれるスタッフがそうした教育を受けてから配置されるので安心です。

Q:院内の評価や感想はいかがでしょう。

橋本:変更当初、患者さんの使うトイレの隅にほこりが残っているといった細かな事がクローズアップされた時期がありましたが、現在はそうした事もなくなりました。旧館の頃は湿式清掃を行っていましたが、乾式清掃に切り替えたことによるかも知れません。病棟管理者(師長25名)に2回アンケートを行いました。ほとんどの点で改善傾向がみられました。一方、入院期間が長い患者さんの病室の隅の汚れなどが、患者さんからご意見いただくこともあります。そうした場合には、合同会議の場で意見を共有し、即時に解決に向けて動いていただけるのでありがたいです。

Q:合同会議について教えていただけますか。

橋本:事務方と、ICN2名、看護副部長と、RJCさん含め、医療廃棄物業者、別棟の清掃を請け負う業者の担当者が一同に集まり、具体的な問題を共有しながら改善策を考え、月一回開催しています。こうしたチームで問題解決していくことで、問題を見える化し、小さなうちに解決することができます。

中島:働き方改革をすすめる中で、病院の理念である「あたたかい医療」を一緒に作りあげていただける方々と仕事を進めてい

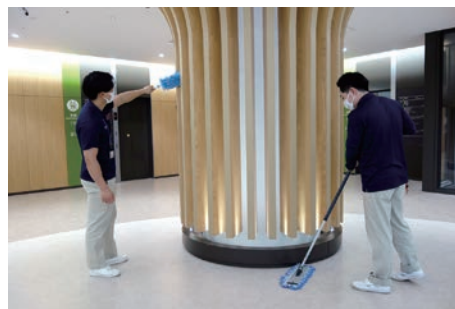
きたいという基本的な考え方があります。新本館の委託業務の準備を進める中で、業務委託契約の内容を抜本的に改善しました。また、当院は災害拠点病院になっているので、BCP(事業継続のプログラム)がしっかりと策定されていないと、診療継続ができなくなります。個人情報保護もとても大切です。こうした事を含めて、スタッフの教育研修に重点を置いている企業と一緒に仕事をすることにしました。業者というよりも、同じ方向に向かって、「あたたかい医療」の提供を一緒に作りあげていけるパートナーであると思っています。

医療DXを進めていく上でも、共に考えて的を射た提案をいただいております、とても役に立っています。

Q:RJCが他施設で業務委託を多岐にわたって請け負ってきた経験や知識が活かしているんですね。

RJC:いくつかの関連する業務を請け負うことで、契約業務のはざまの業務をカバーすることもできますので、そうしたメリットが、恐らく看護補助業務や病棟スタッフの方々の業務改善にも役に立っていると自負しています。

中島:これまで4社入っていた頃は、土日祝日の徹底清掃をなかなかやってもらえなかったのですが、一社体制になってから、とても柔軟に対応していただいております、業務進捗管理もきちんとされ、その状況を常に合同会議の中で共有いただいているので、とても風通しが良くなりました。現場と看護管理室、病棟管理者の3者の間で密に連携できるようになりました。特に現場の看護補助者と清掃スタッフの間では日常的に連携していただいているので、本当に助かっています。それによって退院清掃の質も大幅に改善しましたね。以前ですと、必要なタイミングにも関わらず、事務方を通じて清掃を依頼しなければならず、庶務課を通じて業者に連絡し



でもらうといった形でした。現在はオンコールで即時対応していただいております。

Q:その点では、リードタイムも短縮し、また事務の方々のご負担も軽減しますね。

RJC:事務の方々の本来の業務に関わる時間と手間を削減することができ、それにより、得られた時間を本来の業務に費やしていただけることも、大事なポイントだと思っています。

Q:そうした作業の負荷は減りましたか。

中島:日常業務のそうした業者振り分けや連絡といった負荷は圧倒的に減りました。合同会議で実情はわかりますので、例えば改善すべき大きな問題が発生した場合でも、即時に適切に対応できます。

Q:今後、RJCに期待することはございますか。

中島: 病院では多くの業者に業務委託をしています。その業務のはざまの業務を当院のスタッフがやっているケースが多いので、そうした業務までカバーしていただければ、働き方改革にも繋がってきますので、職員を増やさずともタスクシフト、タスクシェアを実現する手助けになると思います。

また、個人的な意見ではありますが、数多くの委託業者スタッフの中でも、RJCのスタッフは、いつも笑顔で、飛び抜けて元気で明るいので、「あたたかい医療」を実現していただくモデルとして、これから大いに期待しています。

橋本: コロナ禍で、本当に清掃が必要だった時、「うちは高齢者が多いので清掃には入れません。感染したらどう責任とるんですか。」といった厳しい言葉を直接聞かれました。現在RJCさんのスタッフは、前向きに業務に取り組んでくださり、レスポンスも早いのでとても信頼しています。

新本館とは別に2011年に建った棟がありますが、汚れが蓄積してきています。床面の剥離作業をお願いしたところ、作業をした面

としていない面の違いに衝撃を受けました。古い建物であっても、きちんとメンテナンスを続けていけば、耐用年数も延び、経済的なメリットもあるとわかりました。日常清掃のみならず、そうしたメンテナンスがとても大事だなと思っています。

今後、タスクシェアや医療DX、働き方改革のためにもロボット清掃の導入にも期待しています。



編集後記 From Editor

弊社では、これまで東京・神奈川・千葉の首都圏を中心に業務展開して参りましたが、貴重なご縁から、2024年度より福岡大学病院にて院内清掃業務を受託させていただきました。

当初は、一度も足を踏み入れたことのない地域であったため、人材確保出来るか、首都圏と同じ品質を担保出来るか不安でしたが、業務開始から1年が経った今、有難いことに素敵なお縁に支えられ、『リジョイスらしい』サービスを展開する事が出来ました。

これも一重に、今日までご指導頂きました御取引先様の方々や現場で活躍する従業員の尽力の賜物と思っております。この場をお借りして感謝申し上げます。

今回の取材を通し、弊社が目指す『医療機関のパートナー』としての取り組み姿勢を評価頂けている事に、大きな喜びと感謝の気持ちでいっぱいでございます。

新型コロナウイルスが5類感染症となり、従来の日常を取り戻しつつある今、次なる新興感染症に備え、感染症対策への理解を深めていく必要性があります。

弊社としましては、『医療機関のトップパートナー』を目指して、これからも医療機関を下支えしていけるよう精進し、福岡大学病院様とのお縁を大切に、より良いサービスを展開して参ります。

早川 冬悟

全ては、お客様へ快適な環境を届けるために。

for the Client for the Society for the Ourselves

リジョイスカンパニーが
医療機関の様々な業務をサポートします。